

## 社会の変化とともに進化する 安全工学



特定非営利活動法人 安全工学会 会長、東京理科大学 教授

**土橋 律**  
Ritsu Dobashi

安全工学の主な目的の一つは安全に関する社会課題の解決ですので、安全工学は社会の変化とともに常に進化を求められていると言えます。近年では、激甚化する自然災害、カーボンニュートラルに向けた新たな技術の導入、そして高齢化社会の進展など、これまでにない新たなリスクに対応する力が求められています。自然災害については、これを起点とした産業災害 (Natech) のリスクの増加、カーボンニュートラルにおいては、技術に潜在する未知の危険性や新エネルギー社会におけるリスクの複雑化などが新たな課題となってくると考えられます。さらに DX、特に AI の進化と普及は、業務や課題解決を進める上で飛躍的な効率化が期待できる一方で、新たなリスクを含んでいることが懸念されています。このような社会の変化を念頭に置いて安全工学の進化を進めていかなければなりません。

安全工学会においては、こうした新たな課題に学術的・技術的に取り組むべく、研究発表会、講習会、研究会等の開催、情報の共有化のための会誌発行、海外学協会との連携強化など、多角的な活動を展開しております。昨年の安全工学研究発表会では、パネルディスカッションやポスターセッションといった新たな試みを取り入れ、また行事運営ではポ

ストコロナ時代のオンラインを融合したハイブリッド形式を活用し、会員同士の知的交流の深化に繋げることを試んでいます。また、国際的にも、韓国安全工学会との交流、APSS (Asia Pacific Symposium on Safety) の共催や米国の CCPS (Center for Chemical Process Safety) との協働などを行い、国際的なネットワークを構築し、新たな安全の課題の解決に向けて協力しています。

近年、合理的、効果的な安全管理に有効なリスクの概念の導入が進んでいますが、リスクの概念はまだ広く社会に認識されていないと言えます。未解明のリスクへの科学的解明のみならず、リスクの概念自体を世の中に広く認識してもらうことも社会の変化に対応できる安全意識の向上に重要です。様々な講習会、イベント等を通じてリスクの概念への理解を深めることに加えて、さらに広範な教育においてリスクの概念を身につける仕組みを整えてゆくことも検討課題であると考えています。

安全工学を取り巻く環境は変化していますが、技術と知見を社会に還元する使命は普遍です。安全工学会は、総合安全工学研究所をはじめとする関連機関とも連携を深めながら、社会の安全と安心の確保に向けた取り組みを一層推進していきたいと考えております。

### 公益財団法人総合安全工学研究所 理事・監事

理事長 新井 充 東京大学名誉教授  
専務理事 中村 順 (公財)総合安全工学研究所  
常務理事 福富洋志 大阪大学特任教授  
常務理事 三宅淳巳 横浜国立大学上席特別教授  
理事 小川輝繁 横浜国立大学名誉教授  
理事 谷 質生 日油技研工業(株)川越工場長

理事 田村昌三 東京大学名誉教授  
理事 安原 洋 東京大学名誉教授  
理事 若倉正英 (特非)保安力向上センター常務理事  
監事 河野晴行 (公社)日本煙火協会専務理事  
監事 田中保正 元(一社)日本芳香族工業会専務理事